

神田神保町古書店街の発生と変遷

外山 実咲¹・田中 咲²・福井 恒明³

¹学生会員 法政大学大学院修士課程 デザイン工学研究科 都市環境デザイン工学専攻
(〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1, E-mail:misaki.toyama.7a@stu.hosei.ac.jp)

²学生会員 法政大学大学院修士課程 デザイン工学研究科 都市環境デザイン工学専攻
(〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1, E-mail:saki.tanaka.9j@stu.hosei.ac.jp)

³正会員 法政大学教授 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科
(〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1, E-mail:fukui@hosei.ac.jp)

神田神保町は約150もの古書店が集積する世界的に見ても大規模な古書店街である。その一方で、地域史の知見は様々な資料の中に散在しており、古書店が誕生した明治期から現代までを概観することは難しいという現状がある。さらに、史料の中には貴重でありながらも詳細に欠け、あいまいな情報が多く存在する。地域史を理解するにあたって、散在する情報を整理し、あいまいな情報も組み込んで表現することは、全体の特徴を捉える際に重要な課題である。そこで本研究では、神田神保町の書籍関連業種を対象に、明治期から現代までに存在した書籍関連業種の位置情報および時間情報を整理し、あいまいな情報を組み込む手法を用いて可視化した。また、表現したデータから地域の考察を行った。

キーワード: 神田神保町, 古書店街, 学校, 復元図

1. 序論

(1) 研究背景

神田神保町は、約150もの古書店が集積する大規模な古書店街であると同時に、多くの私立大学、専修学校などが立地する学生街でもある。幕末の官立学校の設置をきっかけに武家地から古書店街へと変貌を遂げ、明治初期には私立法律学校が相次いで創立する。また、明治から大正にかけて度々起きた大火、明治36年の市区改正条例による道路拡幅事業、大正12年の関東大震災、昭和20年の東京大空襲などを経てもその特異性が失われることはなかった。

その一方で、地域史の知見は様々な史料の中に散在しており、古書店や学校が誕生した明治期から現代までを概観することは難しいという現状がある。さらに、史料の中には貴重でありながらも詳細に欠け、あいまいな情報が多く存在する。

地域史を理解するにあたって、散在する情報を整理し、あいまいな情報も組み込んで表現することは、全体の特徴を捉える際に重要な課題であると考えられる。

(2) 既往研究

神田神保町の古書店や学校に関する既往研究には、神田神保町の代表的な書店名を挙げながら日本の本屋の歴史を辿った大内¹⁾の研究、書店の特徴や立地特性及び

その変容を明らかにした山崎・津々井²⁾の研究、私立法律学校に着目し学生街形成の経緯を考察した松原³⁾の研究、江戸時代の土地利用と明治期の学校設置の関係性を指摘した土方⁴⁾の研究がある。また、代表的な一部の学校や飲食店の変遷なども踏まえて神田神保町の古書店街の誕生から現在までを幅広く辿った鹿島⁵⁾の研究がある。しかし、明治期から現在に至るまでの150年間を対象とし、古書店や学校を網羅的に概観しようとした研究は見当たらない。

(3) 目的

以上より、本研究では神田神保町の古書店と学校を対象に、以下の3点を目的とする。

- ① 明治期から現代までに神田神保町に存在した古書店の位置情報・時間情報および学校の種別・時間情報を整理しデータベース化する。
- ② あいまいな情報を組み込む手法を用いて上記の結果をそれぞれ表現する。
- ③ 表現したデータから地域の考察を行う。

(4) 研究方法

本研究では、始めに研究対象とする神田神保町の範囲と古書店・学校について定めた後、明治期から現代までの神田神保町の古書店と学校に関する情報が得られる資料を収集する。その資料をもとに古書店名と位置情報・時間情報および学校名と学校種別・時間情報に着目して

情報の抽出・データベース化を行う。

古書店に関して整理したデータは、位置情報や時間情報のあいまいさの程度に応じてそれぞれ地図上で展開できるように変換し、表現する。学校は学校種別を分類し集計表に表現する。

最後にその表現から地域の変遷について考察を行う。

2. 研究対象

(1) 対象地

本研究が対象とする神田神保町の範囲は、鹿島の対象領域⁹⁾ にならぬ、図-1に示した範囲とする。神田川、中央線及び山手線、日本橋川を外縁としており、住民の生活感覚に基づいた範囲である。

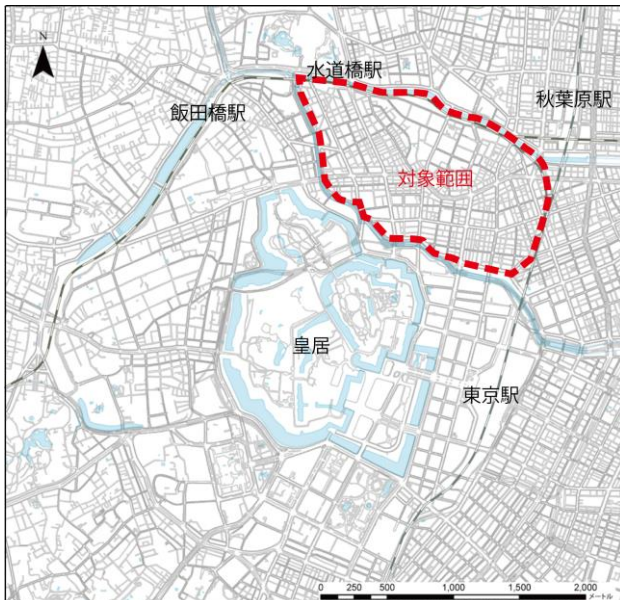


図-1 対象範囲

(2) 対象業種

古書店は誕生した明治期から現代において、学校を始めとする他業種と関わりあいながら存続してきた。古書店以外にも神田神保町には新刊書店、出版社、飲食店では喫茶、カレー、中華料理、他にも楽器店やスポーツ用品店が多く存在する。現在はなくなってしまったが映画館⁷⁾や、昔の本には欠かせない製本屋や印刷屋⁸⁾も多く存在した。そして昔も今も変わらないのは学校が多いということである。

鹿島によれば、東京大学と東京外国語大学の前身である蕃書調所が江戸城脇の広大な火除地の一角に誕生し、これが学校街、古書店街の始まりとなった⁹⁾。鹿島は著書の中で、学生たちが外食等に使うための資金を捻出するために、購入済みの学術書などを古書店に売却した

ことが古書店の大量発生に繋がったと述べている¹⁰⁾。明治 25 年の大火の際には神田区内に多く住んでいた華族が他に移住し、その跡地を学校が買い取り、競うように校舎を建てたことから教科書、参考書需要が拡大した¹¹⁾。また大正 2 年の大火、大正 12 年の関東大震災の際には古書店だけでなく学校もほとんどが全焼し、また印刷所の焼失で新刊書がすっかり途絶えてしまったため、学校の多くが再出発のために図書館の本を古書店に発注した¹²⁾。これらのことから神田神保町が今日の古書店街の姿となるには学校の存在が欠かせなかったと考えられる。

学校の存在は明治末期から大正にかけての中国人留学生の増加にも関係しており、このことは古本需要の増大に加え中華料理店の誕生にも影響した¹³⁾。

今はその繁栄を見ることができない昭和期の神保町の映画館も、トーキー映画の全盛期と神保町が交通の便の良い都内最大の市電乗り換え場所であったことがあいまって、古本屋歩きか映画館か、といった現在の下北沢のように賑わっていたことを鹿島は記している¹⁴⁾。喫茶店の需要が高まるのも必然であったと考えられる。

本研究では上記の経緯を踏まえ、神田神保町地域の代表的な業種である古書店と、その存在が古書店街成立に大きく影響したと考えられる学校を研究対象とする。古書店の中には、店舗の歴史の中で新刊、出版に手を広げるといった営業形態を転換する店舗も存在するが、現在出版社や新刊書店でも過去に古書を扱っていた店舗であれば古書店とみなす。学校に関しては、幼稚園を除いた学校教育施設とし、学校教育法(昭和 22 年 3 月 29 日法律第 26 号)第 1 条に該当しない専修学校や各種学校なども対象とする。

3. 古書店・学校情報のデータベース化

(1) 文献整理

資料の収集は神田神保町の古書店変遷を把握することを目的として千代田区役所小藤田正夫氏、八木書店八木壮一氏、日本古書通信社樽見博氏より資料の提供、紹介を受けた。また、それら以外には主に明治期から現代において発行された、①古書店について記載されているもの②神田神保町について記載されているもの③神田神保町の学校について記載されているものについて収集した⁽¹⁾。

これらを内容に準じて分類してまとめ、明治期から現代までの古書店街の変遷についての情報が効率的に抽出できる古書店に関する 19 資料と、学校に関する 111 資料を、データベース化する資料として選定した(表-1、

2) .

表-1 古書店に関する使用資料^{15) -32)}

資料分類	資料名	年代		
名簿/地図	『東京営業便覧』	1900	明治33年	
地図	神田古本屋分布図(明治三十六七年頃)	1903	明治36年	
	其ノ一・小川町方面、其ノ二・神保町方面	1904	明治37年	
地図	神田古書店街配置図其ノ一 大正十年頃	1921	大正10年	
地図	昭和14年 東京古書店地図	1939	昭和14年	
地図	神田古書店街配置図其ノ二 昭和十九年頃	1944	昭和19年	
地図	神田古書店街配置図其ノ三 三崎町昭和二十二年八月五日、 神保町昭和二十二年九月二十四日現在	1947	昭和22年	
	露店分布図(神保町東部・錦町・小川町・駿河台下) (昭和二十二年九月廿四日現在)	1947	昭和22年	
地図	『神田古書店案内 付古書店名簿並主要取扱書目』	1964	昭和39年	
書籍	『東京古書組合五十年史』	1974	昭和49年	
名簿	『全国古本屋地図上』	1977	昭和52年	
名簿	『改訂新版1982 全国古本屋地図』	1983	昭和58年	
名簿	『'89改訂新版 全国古本屋地図』	1989	平成元年	
名簿	『'98改訂新版 全国古本屋地図』	1997	平成9年	
名簿	『21世紀版 全国古本屋地図』	2001	平成13年	
Webサイト	BOOKTOWNじんぼう 神田神保町古書店一覧 >http://jimbou.info/list/ab_list.html 神田神保町新刊書店一覧 >http://jimbou.info/list/nb_list.html	2005	平成17年	
	名簿	『古本屋名簿 古通手帖2011』	2010	平成22年
	名簿	『明治前期の本屋覚書き 附東京出版業者名寄せ』	2012	平成24年
書籍	『神田神保町書籍街考 世界的「本の街」の誕生から現在まで』	2017	平成29年	
	名簿/地図	『神保町公式ガイドvol.8 2018』	2017	平成29年

表-2 学校に関する使用資料^{33) -44)}

資料分類	資料名	年代	
名簿	日本国文部省年報 第2	1874	明治7年
名簿	日本国文部省年報 第3	1875	明治8年
名簿	日本国文部省年報 第4	1876	明治9年
名簿	日本国文部省年報 第5	1877	明治10年
名簿	日本国文部省年報 第6	1878	明治11年
名簿	日本国文部省年報 第7	1879	明治12年
名簿	日本国文部省年報 第8	1880	明治13年
名簿	日本国文部省年報 第10	1882	明治15年
名簿	日本国文部省年報 第11	1883	明治16年
名簿	日本国文部省年報 第12	1884	明治17年
名簿	東京府学事年報 第12	1885	明治18年
名簿	東京府学事年報 第13	1885	明治18年
名簿	東京府学事年報 第18	1890	明治23年
名簿	東京府学事年報 第19	1891	明治24年
書籍	官私立諸学校案内 明治24年		
名簿	東京府学事年報 第20	1892	明治25年
名簿	東京府学事年報 第22	1894	明治27年
名簿	東京府学事年報 第23	1895	明治28年
名簿	日本国文部省年報 第24	1896	明治29年
名簿	東京府学事年報 第24	1897	明治30年
名簿	東京府学事年報 第25	1897	明治30年
名簿	日本国文部省年報 第26	1898	明治31年
名簿	東京府学事年報 第26		
名簿	日本国文部省年報 第27	1899	明治32年
名簿	東京府学事年報 第27		
書籍	官私立諸学校就学案内 明治32年		
名簿	日本国文部省年報 第28	1900	明治33年
名簿	東京府学事年報 第28		
名簿	日本国文部省年報 第29	1901	明治34年
名簿	東京府学事年報 第29		
名簿	日本国文部省年報 第30	1902	明治35年
名簿	東京府学事年報 第30		
名簿	日本国文部省年報 第31	1903	明治36年
名簿	東京府学事年報 第31		
名簿	日本国文部省年報 第32	1904	明治37年
名簿	東京府学事年報 第32		
書籍	官私立諸学校改正就学案内 明治37年		
名簿	日本国文部省年報 第33	1905	明治38年
名簿	東京府学事年報 第33		
名簿	日本国文部省年報 第34	1906	明治39年
名簿	東京府学事年報 第34		
名簿	日本国文部省年報 第35	1907	明治40年
名簿	日本国文部省年報 第36	1908	明治41年
名簿	日本国文部省年報 第37		
書籍	全国学校案内 明治42年	1909	明治42年
名簿	日本国文部省年報 第38	1910	明治43年
名簿	日本国文部省年報 第39	1911	明治44年
書籍	最新全国学校案内 明治44年		
名簿	日本国文部省年報 第40	1912	明治45年
書籍	全国学校名鑑 大正15年版	1926	大正15年
名簿	学生年鑑 昭和4年	1929	昭和4年
書籍	全国学校教育施設総覧 昭和8年	1933	昭和8年
書籍	全国上級学校大観 昭和13年	1938	昭和13年
書籍	全国上級学校総覧 昭和19年度	1944	昭和19年
名簿	全国学校総覧 昭和30年版	1955	昭和30年
名簿	全国学校総覧 昭和34-60年版	1964-1988	昭和39-63年
名簿	全国学校総覧 1989-2018年版(2000年版欠落)	1989-2018	平成元-30年

(2) 情報の抽出と集約

表-1, 2 の各資料から、変遷を表現するにあたって必要な古書店名ごとの位置情報と時間情報、学校ごとの学校種別と時間情報を抽出し、これを1レコードとして扱う。古書店に関してはその後、同一店舗ごとにレコードを集約する(表-3)。集約は同一であると思われる店舗ごとにまとめ、表形式に整理し、データベースを作成する。本研究では、店舗名が同じであるか、店舗名が異なっても前後年の情報や書籍の文章により経営者が変わらなと判断できる場合は同一店舗としてまとめ、合計565店舗に関するデータベースを作成する。

表-3 古書店データベース

(同一書店に4時点の情報がある例)

書店名	住所	存在年
芳流堂	神田今川小路一丁目五	明治 21
芳流堂金刺書店	今川小路辺りのスズラン通り	明治 28
金刺書店	今川小路一丁目	明治 33
金刺	今川小路	明治 36, 7頃

4. 変遷の表現

(1) 表現方法

古書店に関する表現は、各古書店の位置情報を1年ごとにそれぞれ平面図で表し、学校に関しては1年ごとに学校種別の集計表を作成する。ただし古書店の位置情報には番地まで特定できないあいまいなものを含んでおり、名簿情報のように番地までわかるもの、古書店配置図のようにおおよその位置がわかるもの、文章表記のみものなど様々である。これらのデータは、あいまいさの程度に応じて地図上に展開できるよう変換する必要がある。

(2) データの取り扱い

古書店に関して、各店舗が存在した位置とそこに存在した年次が表現するデータとなる。この位置や期間の情報は必ずしも確定的ではなくあいまいさを含むことが多い。そこでそのあいまいさに応じてデータを分類した(表-4, 5)。

表-4 古書店位置情報のあいまいさ分類

分類	内容
確定 ^{②)}	番地まで特定できる。
あいまい小	番地を特定できないが手がかりとなる情報がある。
あいまい大	番地を特定できず手がかりとなる情報もない。
記載なし	位置情報に関する記載がない、もしくは神田神保町に存在したことがわからない。

表-5 古書店存在年次情報のあいまいさ分類

分類	内容
確定	存在年次を特定できる。
あいまい	あいまいな時間表現があり、存在年次を明確に定めることが出来ない。
記載なし	存在年次に関する記載がない。

上記に基づきデータのあいまいさは12種類に分類される(表-6)。そのうち本研究では位置情報または存在年次情報の両方について何らかの記載があるものを取り扱う。

表-6 古書店に関する表現データの分類

		存在年次情報		
		確定	あいまい	記載なし
位置情報	確定	266	4	0
	あいまい小	341	78	0
	あいまい大	59	10	3
	記載なし	5	5	2

変遷を地図上で可視化するにあたり、あいまいさを含む情報の表現の取り扱いを定めた(表-7, 8)。これにより存在年次が文献情報の内容を厳密に反映しなかったり完全に正確とはならない場合があるが、明治期から現代までの約150年間における流れの概略を把握するには支障はないと考える。また位置情報に関しても、情報の精度にばらつきや不正確さが残るが、それらを含めて表現の方が地域を把握する上では有用であると判断した。

表-7 あいまいな時間情報の表現変換

変換方法	例
連続した2年の表現は後者の年を使用	1903, 4年→1904年
「～年以降」という表現は記載年の翌年を使用	2010年以降→2011年
「～年前後」という表現は記載年を使用	1892年前後→1892年
「～年代」という表現はその年代の中央年を使用	昭和20年代→昭和25年
「～年代終わり」という表現はその年代の最終年を使用	明治30年代終わり→明治39年
「戦後」は終戦(1946年)の翌年を使用	戦後→1946年

表-8 あいまいな位置情報の表現変換

分類	変換方法
あいまい小	一店舗におけるレコードが全て古書店配置図から抽出したものの場合、現在の地図と照らし合わせ番地を特定 番地を特定できない年次があり、より後年に番地を特定できるレコードが入っている場合、確定している番地を不確定な期間にも適用
あいまい大	一店舗におけるレコードが古書店配置図、名簿以外の資料から抽出したもので番地が特定できない場合、町丁別の代表点を目測で設定し、その位置に存在したと定義 戦後の靖国通り沿いの露店古本店は、露店分布図を参考に位置を定義

位置情報が「あいまい大」以外のデータに関して、現住所表記から緯度経度の座標値への変換には、東京大学空間情報科学研究センターが提供する「CSVアドレスマッチングサービス」を利用する。最も高い精度で変換するための条件は、住所が番地までわかることである。また位置情報が「あいまい大」のデータに関しては、表-7のようにして設定した代表点の座標を使用している。このように変換したデータを地図上に展開する。

(3) 古書店分布復元図と学校種別集計表

(2)の作業によりどの年代でも古書店の復元図は作成可能となる。ここでは古書店配置図と古書店名簿のある14時点について復元図を作成した(図-2~5)⁽²⁾。プロットの下地には、文献整理の際に収集した地図の中から各年代に最も近いものを使用した(表-9)。また、学校種別の集計表についても作成した(表-10~12)。

表-9 作成平面図の年代と使用地図⁽⁴⁵⁾⁽⁴⁶⁾

年代	使用地図	発行者
1900	明治33 東京実測全図 明治28年(1895)	東京市区改正委員会
1904	明治37 番地界入東京全図 明治44年(1911)	東京通信管理局
1921	大正10 番地界入東京全図 大正8-11年(1919-22)	東京通信管理局
1939	昭和14 大東京市区画別地図 昭和5-7年(1930-32)	内山模型地図
1944	昭和19 大東京市区画別地図 昭和5-7年(1930-32)	内山模型地図
1947	昭和22 大東京市区画別地図 昭和5-7年(1930-32)	内山模型地図
1964	昭和39 基盤地図情報基本項目	国土交通省国土地理院
1977	昭和52 基盤地図情報基本項目	国土交通省国土地理院
1983	昭和58 基盤地図情報基本項目	国土交通省国土地理院
1989	昭和64/平成元 基盤地図情報基本項目	国土交通省国土地理院
1997	平成9 基盤地図情報基本項目	国土交通省国土地理院
2001	平成13 基盤地図情報基本項目	国土交通省国土地理院
2010	平成22 基盤地図情報基本項目	国土交通省国土地理院
2017	平成29 基盤地図情報基本項目	国土交通省国土地理院

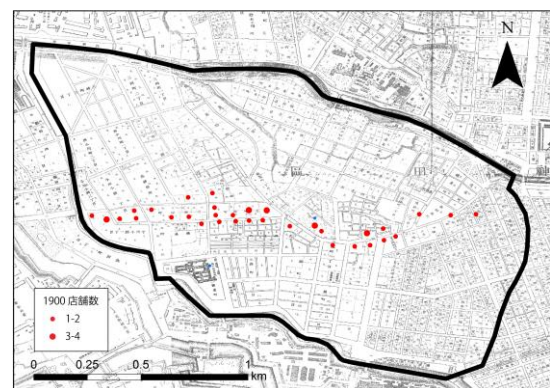


図-2 1900年の古書店分布

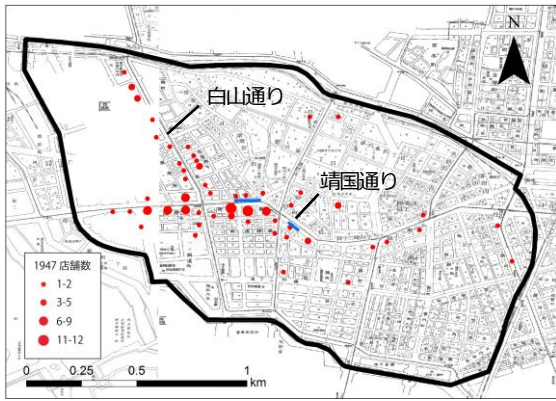


図-3 1947 の古書店分布

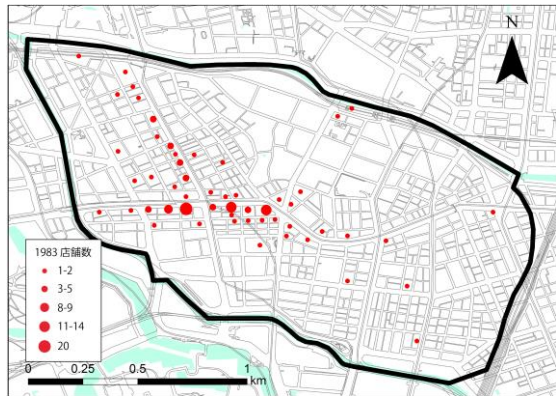


図-4 1983 年の古書店分布

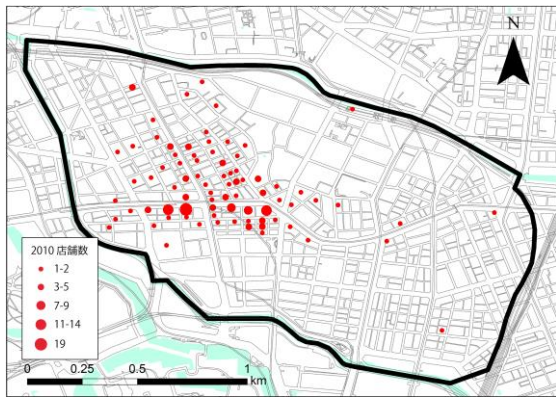


図-5 2010 年の古書店分布

表-10 1874～1900年の学校集計結果

年次	1875 M8	1877 M10	1879 M12	1884 M17	1891 M24	1899 M32	1900 M33
官立学校					2	1	
官立大学 及専門学校		1	2				
私立大学 及専門学校		0	4				
官立外国語学校	2	1					
私立外国語学校	5	0					
公立中学校	0	0	1			1	1
私立中学校	5	21	35		1		
公立小学校	2	3		3			
私立小学校	23	30		15			
公立専門学校	1			4			0
私立専門学校	0			6	19	18	
公立実業学校							0
公立高等女学校						1	1
私立女学校					4	3	
私立諸学校				46	44	30	37
計	38	56	42	74	70	54	39

表-11 1901～1944年の学校集計結果

年次	1905 M38	1909 M42	1911 M44	1926 T15	1933 S8	1938 S13	1944 S19
文部省直轄学校		2	2				
官立学校					1		
私立大学					5	4	7
公立中学校		0	0				
私立中学校	6	5	5	5			
公立専門学校		0	0		1		
私立専門学校	6	6	6	6	8	3	3
公立実業学校		0	0				
私立実業学校	1	2	3	6			
市立実業補習学校	1						
官立大学予科				1			
私立大学予科				4	4	3	
私立女学校							
公立高等女学校		0	0				
私立高等女学校	0	1	2	2			
市立小学校				7			
その他諸学校	54	48	19		15	7	1
計	68	64	37	31	34	17	12

表-12 1945～2018年の学校集計結果

年次	1955 S30	1965 S40	1975 S50	1990 H2	2001 H13	2010 H22	2018 H30
私立大学	9	8	9	9	9	9	9
私立大学院		6	6	4	4	5	4
私立短期大学	5	4	7	4	4	2	2
通信制大学				1	1	2	2
高等学校	13	12	8	7	5	6	6
中学校	7	6	4	4	4	3	3
小学校	6	6	5	5	2	2	2
各種学校	29	29	28	8	7	5	2
専修学校	1			25	23	23	22
計	70	71	67	67	59	57	52

5. 考察

(1) 古書店街と学校の変遷

古書店分布と学校種別集計を照らし合わせ、年代ごとに考察する。

a) 明治期

図-2より、東西方向の大通り沿いを中心に古書店が分布していることがわかる。表-10より、明治初期から官立学校を始めとする学校が創立している。明治20年ごろになると私立専門学校が出現し、私立諸学校も記載されるようになり全体の学校数が増えている。私立専門学校の中には、現在の明治大学、中央大学、専修大学、日本大学、法政大学の前身である法律専門学校が創立している。この頃は学校の創設期で、学生を相手とした古書の需要が増加していた時代といえる。

b) 大正～太平洋戦争直後

図-3より、東西方向の大通り沿いを中心に店舗数が増加し、南北に走る白山通りに店舗が出現していることがわかる。また、太平洋戦争後、靖国通り沿いに青色で示した露店古本屋が出現している。これはGHQが露店撤去の指令を出すまで存在した。大正7年に大学令が公布されたことから、それ以降私立大学が出現しており、ここでようやく制度上で専門学校から大学へと分類されるようになる(表-11)。予備校などが分類された「その他諸学校」においてその数は減少し、全体の学校数が減少しているように捉えられるが、大正～昭和20年代までは学校の名簿に関するまとまった資料が収集できず、体裁もまちまちであるため学校総数だけで一概に考察することができない。

c) 昭和末期～平成

図-4より、大通りに面していない裏通りの店舗の分布と、一つの番地当たりの店舗集積数が多い個所が目立つようになる。その後、裏通りの店舗が増加し面的に分布が広がっていったことがわかる(図-5)。表-12では昭和30年以前と比べると私立大学が増えている。これは日本大学や共立女子大学のキャンパスが増えたことをカウントしているためである。キャンパスが増設される一方、中央大学や東京電機大学は神田神保町外へと移転しており、全体の大学の総数は一定に見える。また、通信制大学の出現や、専修学校が記載されるようになる。小・中・高等学校は減少傾向にあるが、高等教育施設は現在も一定数を保っている。これは、現在も神田神保町には学生が集うことにより、古書店の継続にも影響していると考えられる。

(2) 情報精度と表現手法

古書店に関しては、あいまいな情報を組み込み復元図

を作成し、変遷の概観を捉えることができた。学校に関しては、表形式に集計することに留まり、年次によって記載のない学校種別が存在するなど不完全な情報も多く、古書店と合わせて地域史を理解するには課題が残っている。古書店分布復元図と同様にあいまいな情報を組み込む手法を用い、学校分布図を作成することで、立地特性や古書店分布との関係まで考察することができ、地域史への理解が深められると考える。

6. まとめ

(1) 結論

本研究の結論は以下の3点である。

- ① 明治期から現代までに神田神保町に存在した古書店の位置情報・時間情報および学校の種別・時間情報を整理した。各資料から情報を抽出し、古書店に関しては同一店舗ごとにまとめデータベース化した。これにより散在していた情報に一度でアクセスが可能となった。
- ② 古書店に関しては位置・時間情報が揃っているデータを対象として取り扱うほか、位置情報があいまいであるデータについても取り扱い、前者に組み込むことで古書店分布復元図を作成した。学校に関しては、学校種別の集計表を作成し、それぞれの変遷を表現した。
- ③ 表現したデータから、古書店と学校の関係性や変遷の背景を考察した。

(2) 今後の課題

本研究は古書店と学校を対象とし、神田神保町の地域史を概観するべく、それぞれ分布図と種別集計表で変遷を表現した。あいまいな情報を組み込むことで全体の特徴が捉えやすくなる可能性を示したが、表現方法には課題が残る。地域史の全体の特徴を捉えるために、断片的な分布状況を平面図で示すだけでなく、それらを一括して概観できるような表現方法を今後の課題とする。また、古書店街の成立には、学校以外にも飲食店や出版社といった業種の存在が影響したと考えられるため、対象業種を拡充することも今後の課題として挙げられる。

補注

- (1) 国立国家図書館デジタルコレクション、東京都立中央図書館、千代田区立図書館、法政大学図書館の所蔵する書物について調査を行った。
- (2) 本来であれば番地より詳細な住居番号である「号」まで特定すべきであるが、対象範囲には住居表示未実施地区が多く含まれること、また本研究で表現するスケールと

古書店の密度をふまえると番地レベルでの表現がふさわしいと判断した。

- (3) 本研究ではアドレスマッチングサービスを利用し一括して座標を取得しているため、複数の店舗が同じ番地に集約されている。これをふまえ番地に存在した店舗数に応じてプロットの大きさを変えて表現した。また、表8で変換したあいまい大のデータに関しては青色で表現した。

参考文献

- 1) 大内田鶴子・熊田俊郎・小山騰・藤田弘夫編：神田神保町とへい・オン・ワイ，pp.101-137，東信堂，2008
- 2) 山崎賢悟・津々見崇：「本の街」神田神保町にみる成熟した専門店街の変容，日本都市計画学会都市計画論文集，No.42-3，pp.163-168，2007
- 3) 松原太郎：明治期神田学生街の形成と私立法律学校，明治大学史資料センター報告，No.37，pp.99-117
- 4) 土方苑子編：各種学校の歴史的研究 明治東京・私立学校の原風景，東京大学出版会，2008
- 5) 鹿島茂：神田神保町書肆街考 世界的本の街の誕生から現在まで，筑摩書房，2017
- 6) 前掲5)，pp.9-10
- 7) 前掲5)，p.421
- 8) KANDA ルネッサンス出版部編：神田まちなみ沿革図集，pp.50-74，久保工務店，1996
- 9) 前掲5)，p.20
- 10) 前掲5)，p.81
- 11) 前掲5)，p.144
- 12) 前掲5)，p.346
- 13) 前掲5)，p.293，345
- 14) 前掲5)，p.449
- 15) 川島静治編：東京営業便覧，pp.85-94，博報堂，1900
- 16) 和田清編：神田古本屋分布図其ノ一 小川町方面，其二 神保町方面 神田書籍商同志會史，神田書籍商同志會，1937
- 17) 小林静生編：神田古書店街配置図其一 東京古書組合五十年史，pp.992-993，東京都古書籍商業協同組合，1974
- 18) 小林静生編：昭和14年東京古書店地図 東京古書組合五十年史，pp.994-995，東京都古書籍商業協同組合，1974
- 19) 不詳：神田古書店街配置図其二，小藤田正夫氏提供
- 20) 不詳：神田古書店街配置図其三，小藤田正夫氏提供
- 21) 小林静生編：露店分布図（神保町東部・錦町・小川町・駿河台下）東京古書組合五十年史，p.608，東京都古書籍商業協同組合，1974
- 22) 不詳：神田古書店案内図付古書店名簿並主要取扱書目，小藤田正夫氏提供
- 23) 小林静生編：東京古書組合五十年史，東京都古書籍商業協同組合，1974
- 24) 八木福次郎編：全国古本屋地図上，pp.60-63，日本古書通信社，1977
- 25) 八木福次郎編：改訂新版1982全国古本屋地図，pp.130-133，日本古書通信社，1983
- 26) 八木福次郎編：'89改訂新版全国古本屋地図，pp.265-269，日本古書通信社，1989
- 27) 八木福次郎編：'98改訂新版全国古本屋地図，pp.338-343，日本古書通信社，1997
- 28) 八木福次郎編：21世紀版全国古本屋地図，pp.375-381，日本古書通信社，2001
- 29) 日本古書通信社編集部編：古本屋名簿古通手帖 2011，pp.18-36，日本古書通信社，2010
- 30) 磯部敦：明治前期の本屋覚書き 附.東京出版業者名寄せ，pp.117-286，金沢文圃閣，2012
- 31) 前掲5)
- 32) 風讀社「ナビプラ神保町」編集部編：神保町公式ガイド vol.8 2018，pp.58-69，神田古書店連盟，2017
- 33) 文部省：日本帝国文部省年報 第1~40，文部省，1875~1914
- 34) 東京府：東京府学事年報 第12~40，東京府学務課，1885~1909
- 35) 園田三郎編：官私立学校案内，文学館，1891
- 36) 内山正如編：官私立諸学校就学案内，博文館，1899
- 37) 上村貞子編：官公私立諸学校改正就学案内，博文館，1904
- 38) 高橋都素武編：全国学校案内 明治42年，内外出版協会，1909
- 39) 内外出版協会編：最新全国学校案内，内外出版協会，1911
- 40) 帝国地方行政学会編：全国学校名鑑 大正15年版，帝国地方行政学会，1926
- 41) 山海堂編集部編：学生年鑑 昭和4年，山海堂出版部，1928
- 42) 聯合府市政通信社編：全国学校教育施設総覧，聯合府市政通信社，1933
- 43) 欧文社編集部編：全国上級学校大観，欧文社，1938
- 44) 旺文社編：全国上級学校総覧 昭和19年度，旺文社，1945
- 45) 地図資料変残纂会編：江戸-東京市街地図集成 第1期，柏書房，1990
- 46) 地図資料変残纂会編，江戸-東京市街地図集成 第2期，柏書房，1990